

EMBEDDED COOKER

Patent number: JP11166739

Publication date: 1999-06-22

Inventor: USUI KENZO; KAKINO MITSUHIRO; JODAI MITSURU; SETOGUCHI HIROYUKI

Applicant: MATSUSHITA ELECTRIC IND CO LTD

Classification:

- international: A47B77/08; F24C15/08; A47B77/08; F24C15/08; (IPC1-7): F24C15/08; A47B77/08

- european:

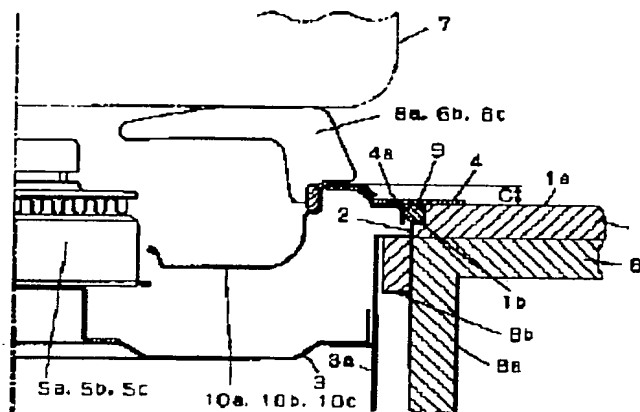
Application number: JP19970332620 19971203

Priority number(s): JP19970332620 19971203

Report a data error here

Abstract of JP11166739

PROBLEM TO BE SOLVED: To secure wide cooking space, by constituting a top plate into roughly the same plane with a counter. **SOLUTION:** A cabinet 8, where a counter 1 is placed, is provided with a beam 8b lengthwise on the side plate 8a fronting on the opening 2 of the counter 1. A gas stove 3 is recessed from the opening 2 of the counter 1, and the top of the stove main body 3a is supported by a beam 8b. This cooker is provided with a step face 1b around the opening 2 of the counter 1, and a packing 9 for sealing mounted to the metal fitting 4a for positioning provided at the rear of the top plate 4 of the gas stove 3 is stuck fast to the top plate 4 and the top face 1a of the counter within the step face 1b of the opening 2 of the counter 1. Since nothing exists between the topside 1a of the counter 1 and the top plate 4, the top plate 4 becomes roughly the same plane with the topside 1a of the counter.



(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平11-166739

(43) 公開日 平成11年(1999) 6月22日

(51) Int.Cl.⁶

識別記号

F I

F 2 4 C 15/08

F 2 4 C 15/08

G

A 4 7 B 77/08

A 4 7 B 77/08

A

審査請求 未請求 請求項の数11 O L (全 7 頁)

(21) 出願番号 特願平9-332620

(22) 出願日 平成9年(1997)12月3日

(71) 出願人 000005821

松下電器産業株式会社

大阪府門真市大字門真1006番地

(72) 発明者 碓井 研造

大阪府門真市大字門真1006番地 松下電器
産業株式会社内

(72) 発明者 垣野 光弘

大阪府門真市大字門真1006番地 松下電器
産業株式会社内

(72) 発明者 城代 充

大阪府門真市大字門真1006番地 松下電器
産業株式会社内

(74) 代理人 弁理士 滝本 智之 (外1名)

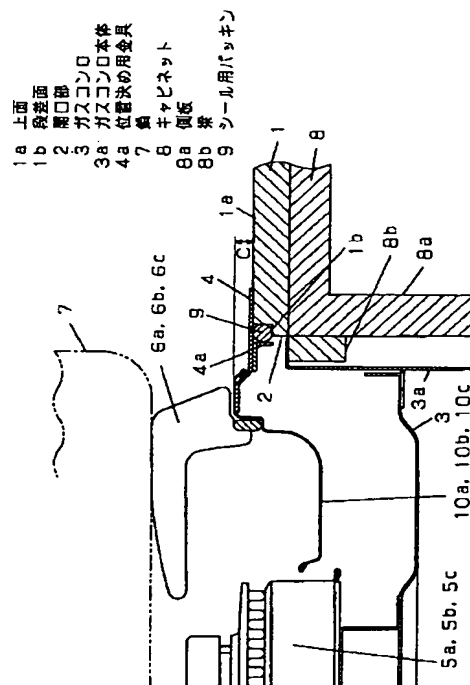
最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 組込型調理器

(57) 【要約】

【課題】 天板をカウンタとほぼ面一に構成し、広い調理スペースを確保できる組込型調理器を提供する。

【解決手段】 カウンタ1を載置しているキャビネット8において、カウンタの開口部2に面した側板8aの上部に、前後に渡って梁8bが設けられている。ガスコンロ3は、カウンタ1の開口部2より落とし込まれ、ガスコンロ本体3aの上部が梁8bによって支えられている。カウンタ1の開口部2の周囲には、段差面1bが設けられており、ガスコンロ3の天板4の裏面に設けられた位置決め用金具4aに装着されたシール用パッキン9がカウンタ1の開口部2の段差面1bの中で天板4とカウンタの上面1aに密着している。カウンタ1の上面1aと天板4の間には何も介在しないため、天板4は、カウンタ上面1aとほぼ面一になる。



【特許請求の範囲】

【請求項 1】 調理器本体をカウンタの開口部より落とし込み、カウンタが載置されるキャビネットにおいて前記カウンタの開口部に臨む側板上部に設けられた調理器支持用の梁上面に調理器本体上部を支持し、調理器の天板とカウンタの上面とがほぼ面一になるように構成した組込型調理器。

【請求項 2】 カウンタの開口部の上縁全周にわたって形成した段差面に装着されていて、調理器の天板をシールするシール用パッキンを有する請求項 1 記載の組込型調理器。

【請求項 3】 シール用パッキンは、天板裏面のカウンタの開口部に相対する位置に設けられていてカウンタの開口部との位置決め用金具に沿って、装着されるようにした請求項 2 記載の組込型調理器。

【請求項 4】 シール用パッキンは、カウンタの開口部の上縁全周にわたって形成された段差面と、カウンタの開口部端面に設けられた端面保護板とによって形成された溝に装着される請求項 2 記載の組込型調理器。

【請求項 5】 複数個の加熱調理機構を有し、うち 1 個を天板の手前側に配置すると共に、それ以外の加熱調理機構を天板の奥側に配置し、前記天板の手前側に調理スペースを形成した請求項 1 ないし 4 のいずれか 1 項に記載の組込型調理器。

【請求項 6】 複数個の加熱調理機構の全てをガスコンロである請求項 5 記載の組込型調理器。

【請求項 7】 複数個の加熱調理機構をガスコンロと誘導加熱ヒータとにより構成した請求項 5 記載の組込型調理器。

【請求項 8】 誘導加熱ヒータの上面を天板の開口部裏面に密着させることにより、誘導加熱ヒータ上面と天板をほぼ面一とした請求項 7 記載の組込型調理器。

【請求項 9】 誘導加熱ヒータをキッチンの調理台側に配置した請求項 8 記載の組込型調理器。

【請求項 10】 ガスコンロごとに別個の五徳および汁受け皿を設けた請求項 6 ないし 9 のいずれか 1 項に記載の組込型調理器。

【請求項 11】 ガスコンロの汁受け皿の外周部を、天板より上方に位置するように設けた請求項 10 記載の組込型調理器。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】 本発明は、組込型調理器に関するものである。

【0002】

【従来の技術】 従来の組込型調理器は、図 6 と図 7 に示すように構成されている。

【0003】 図 6、図 7 において、カウンタ 1 の上面 1 a に開口部 2 を形成し、この開口部 2 に調理器としてのガスコンロ 3 が落とし込んで組込まれている。ガスコン

ロ本体 3 a はカウンタ 1 の上面 1 a で支えられており、ガスコンロ 3 の天板 4 はカウンタ 1 の上面 1 a よりも高さ A だけ突出している。5 は加熱調理機構としてのガスバーナ、6 は五徳、7 は五徳に架けられた鍋を示す。

【0004】 また、特開平 7-158865 号公報には五徳の上端部をカウンタの上面と面一とした組込型ガスコンロが開示されている。

【0005】

【発明が解決しようとする課題】 しかしながら、前記する従来例の組込型調理器では、ガスコンロ 3 の天板 4 がカウンタ 1 の上面 1 a よりも高さ A だけ突出しているため、カウンタ 1 の上面 1 a でガスコンロ 3 の横の空きスペースが小さく、鍋や調理に使用する道具を入れた容器などをガスコンロ 3 の近傍位置に置きにくいという課題を有していた。

【0006】 これに対して、特開平 7-158865 号公報では五徳の上端部がカウンタの上面と面一に形成されているため、五徳とカウンタの上面とに架け渡して鍋などを置くことができるが、五徳とカウンタの上面との間に隙間ができるためスプーンなどの小さな器物を五徳とカウンタの上面とに架け渡して置くことはできない。

【0007】 その上、五徳は熱くなっている場合があるため、耐熱性でない容器やまな板などを五徳とカウンタの上面とに架け渡して置くことについて、利用者に抵抗感を与えているのが現状であって、依然としてガスコンロの近傍位置の調理スペースが狭いという感じを利用者に与えているという課題を有していた。

【0008】

【課題を解決するための手段】 本発明は上記従来例の課題を解決するために、カウンタの上面より下方に位置する面で調理器本体の上部を支えるものである。

【0009】 上記発明によれば、カウンタの上面と調理器の天板の間に調理器本体の上部が介在しないため、カウンタの上面と調理器の天板とをほぼ面一に構成することができ、天板をカウンタ同様の調理スペースとして利用できるため、従来よりも快適な広い調理スペースを確保することができる。

【0010】

【発明の実施の形態】 本発明は各請求項に記載した構成として実施することができるのであるが、その実施形態を詳述するために構成に加えてその構成による作用効果を以下に述べる。請求項 1 記載の発明は調理器本体をカウンタの開口部より落とし込み、カウンタが載置されるキャビネットにおいて前記カウンタの開口部に臨む側板上部に設けられた調理器支持用の梁上面に調理器本体上部を支持し、調理器の天板とカウンタの上面とがほぼ面一になるように構成したものである。

【0011】 従って、天板をカウンタ同様の作業スペースとして利用できるため、従来よりも快適な広い調理スペースを確保することができる。

【0012】また、請求項2記載の発明はカウンタの開口部の上縁全周にわたって形成した段差面に装着されて、調理器の天板をシールするシール用パッキンを有するものである。

【0013】従って、カウンタの上面より下がった位置にシール用パッキンを設けることができるため、調理器の天板とカウンタの上面とをより面一に近づけることができる。

【0014】また、請求項3記載の発明はシール用パッキンは、天板裏面のカウンタの開口部に相対する位置に設けられていて、カウンタの開口部との位置決め用具に沿って、装着されるようにしたものである。

【0015】また、請求項4記載の発明はシール用パッキンは、カウンタの開口部の上縁全周にわたって形成された段差面と、カウンタの開口部端面に設けられた端面保護板とによって形成された溝に装着したものである。

【0016】また、請求項5記載の発明は複数個の加熱調理機構を有し、うち1個を天板の手前側に配置すると共に、それ以外の加熱調理機構を天板の奥側に配置し、その手前側に調理スペースを形成したものである。

【0017】また、請求項6記載の発明は、複数個の加熱調理機構を全てガスコンロとしたものである。

【0018】また、請求項7記載の発明は、複数個の加熱調理機構をガスコンロと誘導加熱ヒータとにより構成したものである。

【0019】以上の請求項3ないし7記載の発明は請求項1記載の発明の実施形態とすることができるものである。

【0020】また、請求項8記載の発明は誘導加熱ヒータの上面を天板の開口部裏面に密着させることにより、誘導加熱ヒータ上面と天板をほぼ面一としたものである。

【0021】従って、誘導加熱ヒータを使用していないときには、誘導加熱ヒータの上面をカウンタや天板同様の調理スペースとして利用することができる。

【0022】また、請求項9記載の発明は、誘導加熱ヒータをキッチンの調理台側に配置したものである。

【0023】従って、調理台の上面から、天板、誘導加熱ヒータの上面へとわたる快適な広い調理スペースが確保できる。

【0024】また、請求項10記載の発明はガスコンロごとに別個の五徳および汁受け皿を設けたものである。

【0025】また、請求項11記載の発明はガスコンロの汁受け皿の外周部を、天板より上方に位置したものである。

【0026】従って、調理や盛りつけ作業中に、誤って天板上面を転がった調味料の小瓶や小さな食材などが、高温となるガスコンロの汁受け皿の上に落ちるのを防ぐことができる。

【0027】

【実施例】以下、本発明の組込型調理器の実施例について図面を用いて説明する。

【0028】（実施例1）図1は本発明の実施例1の組込型調理器の外観斜視図である。また、図2は組込型調理器の要部断面図である。

【0029】図2に示すように、カウンタ1を載置しているキャビネット8において、カウンタ1の開口部2に面した側板8aの上部に、前後に渡って梁8bが設けられている。

【0030】ガスコンロ3は、カウンタ1の開口部2より落とし込まれ、ガスコンロ本体3aの上部が梁8bによって支えられている。

【0031】カウンタ1の開口部2の上縁全周にわたって段差面1bが形成されており、ガスコンロ3の天板4の裏面に設けられた位置決め用具4aに装着されたシール用パッキン9がカウンタ1の開口部2の段差面1bと天板4に密着している。

【0032】カウンタ1の上面1aと天板4の間には何も介在しないため、天板4は、カウンタ上面1aとほぼ面一になるよう置くことができる。

【0033】図1に示すように、ガスバーナ5a、5b、5cごとに別個に五徳6a、6b、6cならびに汁受け皿10a、10b、10cが設けられている。

【0034】複数のガスバーナ5a、5b、5cは、ガスコンロ3の天板4には左寄りに矢印Bで示す奥行方向に第1、第2のガスバーナ5a、5bが配置され、第3のガスバーナ5cはカウンタ1の右寄りの奥側に配置されている。

【0035】このように構成することにより、1点鎖線で囲んだカウンタ1の上面1aからガスコンロ3の天板4の手前側のスペースにかけてほぼフラットな広い調理スペース11aが形成される。この調理スペース11a上では、まな板や小さな器、大きな器または鍋などを置いて、調理や盛りつけ作業などができる。

【0036】また、汁受け皿10a、10b、10cが、天板4の調理スペースより高さC突き出た面に載置されているため、調理や盛りつけ作業中に、誤って調味料の小瓶や小さな食材が天板4の上を転がっても、高温となる汁受け皿10a、10b、10cの上に落ちるのを防ぐことができる。

【0037】（実施例2）図3は本発明の実施例2における組込型調理器の要部断面図である。実施例1におけるシール用パッキン9は、天板4の裏面に設けた位置決め用具4aに装着されていたが、この実施例2ではシール用パッキン9は、カウンタ1の開口部2の上縁全周にわたって形成された段差面1bと、カウンタ1の開口部2に貼られた端面保護板12とによって形成された溝2aに装着されている。このように構成した場合であっても、実施例1と同様の効果が得られる。

【0038】（実施例3）図4は本発明の実施例3にお

ける組込型調理器の要部断面図である。また、図5は実施例3における組込型調理器の外観斜視図である。実施例1では加熱調理機構の全てがガスコンロであったが、加熱調理機構がガスコンロと誘導加熱ヒータであれば、さらに広い調理スペースが形成される。

【0039】図4において、天板4の裏面に誘導加熱ヒータ13が取付板14を介してネジ15で締結されている。そして天板4と天板4の開口部4bより覗いた誘導加熱ヒータ13のプレート面16がほぼフラットになるよう構成されている。天板4とプレート面16の間には、隙間をシールするためのクッションゴム17などが介在している。

【0040】図5において、調理台1cに近く天板4の奥側である位置に誘導加熱ヒータ13が配置され、第1のガスバーナ5aは調理台1cから最も離れた天板4の手前側に配置されている。また、第2のガスバーナ5bは天板4中央の奥側に配置されている。

【0041】このように構成することにより、誘導加熱ヒータ13が加熱していない状態では、一点鎖線で囲んだ調理台1cから誘導加熱ヒータ13、天板4の手前側に掛けてほぼフラットな広い調理スペース11bが形成される。

【0042】

【発明の効果】以上のように本発明によれば、カウンタの上面と調理器の天板とをほぼ面一に構成したため、カウンタ上面から調理器の天板にわたるほぼフラットで広い調理スペースを確保することができ、鍋や調理に使用する道具を入れた容器などを安定してこの確保できた調*

* 理スペースに置いて調理作業を実施できる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の実施例1における組込型調理器の外観斜視図

【図2】同組込型調理器の要部断面図

【図3】本発明の実施例2における組込型調理器の要部断面図

【図4】本発明の実施例3における組込型調理器の要部断面図

【図5】同組込型調理器の外観斜視図

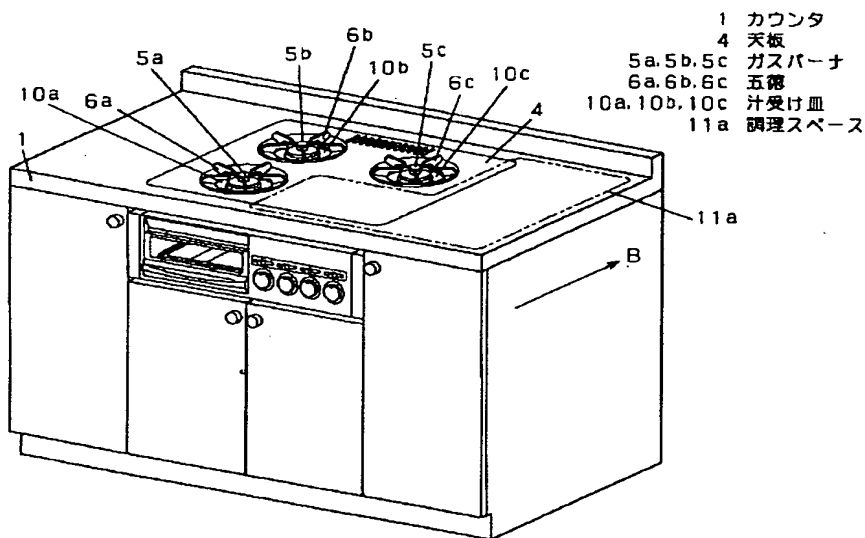
【図6】従来の組込型調理器の外観斜視図

【図7】同組込型調理器の要部断面図

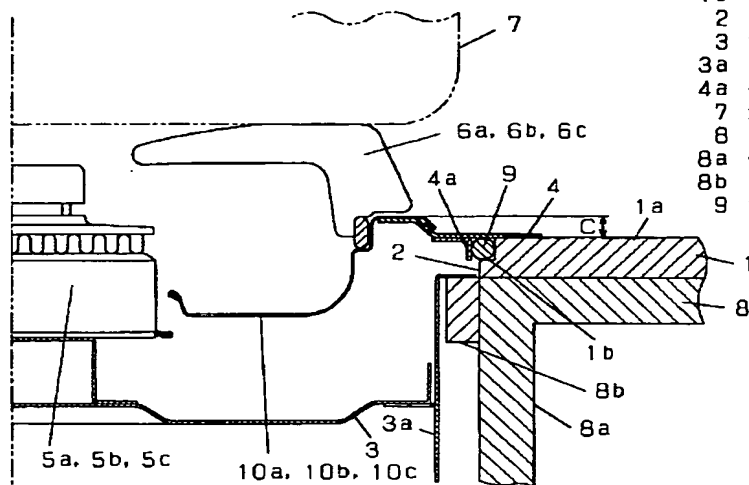
【符号の説明】

- 1 カウンタ
- 1 a 上面
- 1 b 段差面
- 2 開口部
- 3 ガスコンロ
- 4 天板
- 4 a 位置決め用金具
- 6, 6 a, 6 b, 6 c 五徳
- 8 キャビネット
- 8 a 側板
- 8 b 梁
- 9 シール用パッキン
- 10 a, 10 b, 10 c 汁受け皿
- 12 端面保護板
- 13 誘導加熱ヒータ

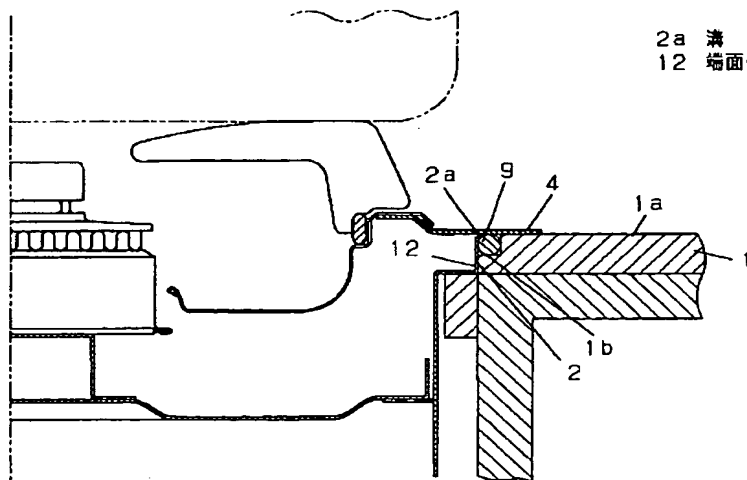
【図1】



- 1a 上面
- 1b 段差面
- 2 開口部
- 3 ガスコンロ
- 3a ガスコンロ本体
- 4a 位置決め用具
- 7 鎖
- 8 キャビネット
- 8a 側板
- 8b 架
- 9 シール用パッキン

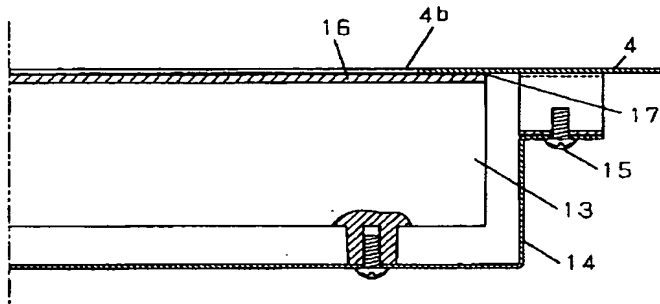


2a 溝
12 端面保護板



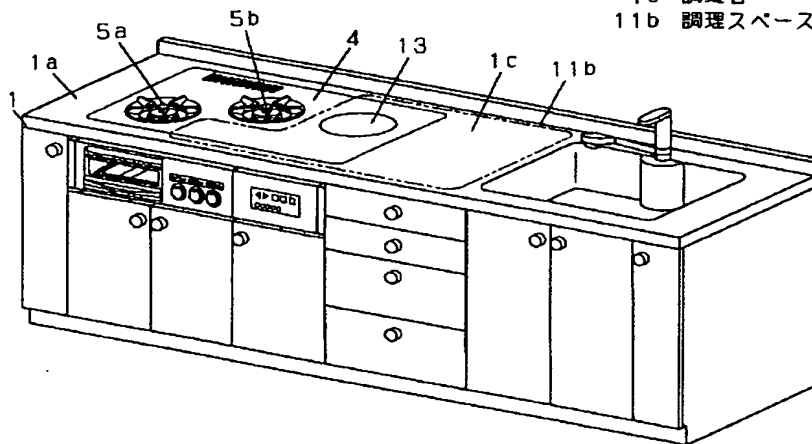
【図4】

- 4b 開口部
- 13 誘導加熱ヒータ
- 14 取付板
- 15 ネジ
- 16 プレート面
- 17 クッションゴム

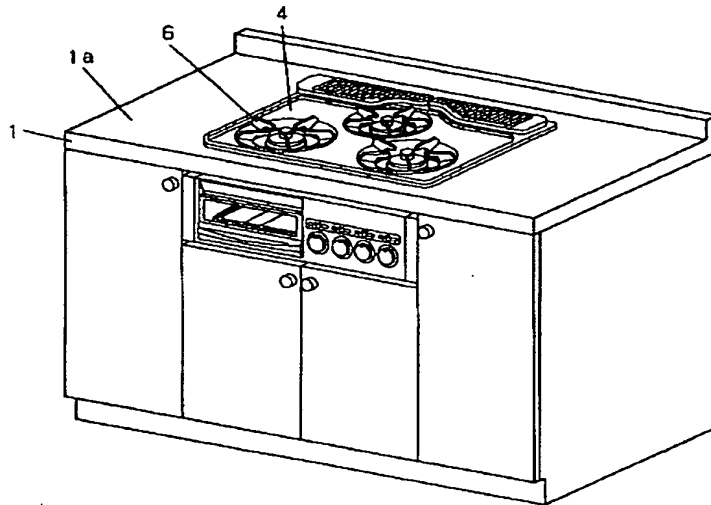


【図5】

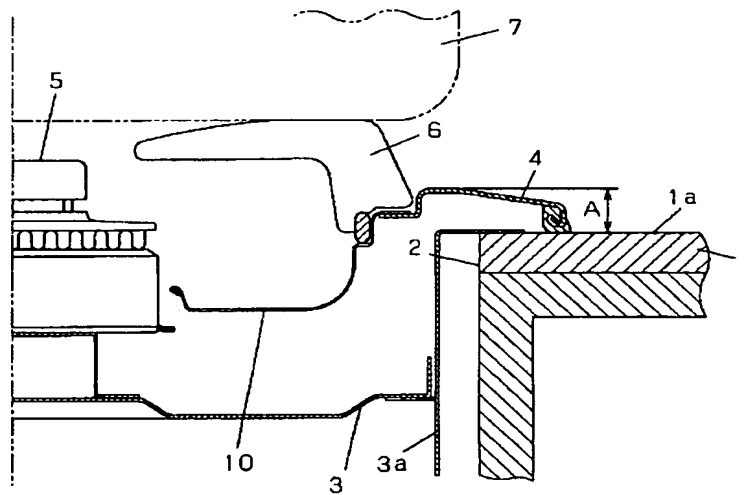
- 1c 調理台
- 11b 調理スペース



【図6】



【図7】



フロントページの続き

(72)発明者 瀬戸口 弘幸
大阪府門真市大字門真1006番地 松下電器
産業株式会社内